

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 1月 17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470900659		
法人名	特定非営利活動法人はあとうおーむ		
事業所名	グループホームたんぽぽ		
所在地	広島県三原市和田3-10-19 (電話) 0848-81-0670		
自己評価作成日	H22.7.30	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksiks.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=3470900659&SCD=320
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年1月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

みんなで一緒に楽しく過ごせる様に、寄り添いながら馴染のあるサービスを提供することを目指しています。理念である「今、ここで楽しんで」「今、ここで笑って」「今、ここで輝いて」を念頭に、一人ひとりのスペースでゆったりと生活が出来るよう環境整備等に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、2階建ての建物を活用した”洋”を基調した2ユニット（定員18名）である。スーパーや協力医療機関も近く、立地条件を活かし、気候が良ければ、いつでも散歩や買い物が出来るようになっている。平成21年3月に移転し、新しい地域でサービスを提供されている。ホーム周辺がアパートなどの地域であり、近隣住民との交流が難しい状況であったが、ホームが出向くことにより、地域住民の皆様と馴染みのある自然な付き合いが出来てきた。民生委員の方から情報を頂くようになり、子ども達からも関心を持たれるようになり、少しずつ地域に定着している。法人理念「その人なりの想いと笑顔のある生活をサポートする。」を基に、一人ひとりのペースで生活が出来るよう環境整備等に努めている。家庭的で暖かみと、安心感のある事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ミーティングで笑顔という言葉を出し、日々の中で笑顔をどれだけ引き出せるか声をかける様になっている	法人理念を念頭に置き、各ユニット共に理念の実現に向けて取り組んでいる。ケアの方針「話し合うようにします。」「一緒に行くようにします。」に基づき、チーム一丸となり、利用者支援に心掛けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	民生委員の方から、地域行事の情報を貰い参加していきたい	ホームが出向く事により、民生委員の方から情報を頂き、地元の祭りを観覧したり、子ども達からも関心を持たれるようになった。運営推進会議を通じ情報交換を行うなか、社会の構成員として人と人との関わりをもつよう努力されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	キャラバンメイトとしてサポーター養成に協力している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域へ出掛けて行くための地域情報を、得るようにしている	2ヶ月に1回開催している。ホーム現状を報告するなか、建設的な意見交換が行われている。参加者との随時連携を行い、その中で地域情報やアドバイスを頂き、利用者の支援及び運営改善に繋げている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市の窓口へ行き、気になる事は相談するようにしている	運営推進会議に市の福祉保健課の方が参加されている。担当者とは、随時連絡や直接出向くなどを行い、協力関係を築くように取組み、サービスの質の向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	日々の申し送り、報告等で自覚しない身体拘束が行われていないか、ケアを振り返るようにしている	日中玄関は開放している。無断外出された方がおられ、それらを教訓に1階玄関に、チャイムを設置し確認している。常に職員は、身体拘束をしないケアを意識し、環境や利用者支援について疑問に思う時は、話し合いを持つようになっている。その人らしく生活して頂くよう、自然な見守りのケアを心掛けている。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	研修を行ってはいるが十分とはいえない		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	行えていない		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	時間を取ってていねいに説明し、重度化や看取りの対応についても説明している		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	言葉として発せられる意見は採り上げているが、運営に反映するには至っていない	毎月利用料金の請求時には、ホームでの生活状況を報告している。家族訪問時や状態変化があればその都度連絡し、生の声を聴くよう努力されている。運営推進会議に家族代表者に参加して頂き、それらの意見などを運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	要望や意見を聞くよう声掛けにはいるが、不満や苦情は言い難い部分も多いと思われるので、把握しきれていない可能性もある	申し送りや連絡ノートの活用、必要に応じてミニミーティングの回数を増やし、管理者は、意見を聞く機会を設けている。会議以外での職員とのコミュニケーションを大切にしたり、人事考課制度を導入し、意見を聞く機会を設けている。職員全員がチームアプローチのもと、利用者支援に心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	フルタイム常勤職員の完全正社員化や、キャリアパスの導入等、行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新入社員に関しては計画を立て行っている他のスタッフに関しては個人の力量、状況に応じて行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修では同業者と交流する機会を持っているが、地域の同業者とは出来ていない		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用について相談があったときは、必ず本人に会って、心身の状態や本人に向き合い、本人に受け入れられるような関係作りに努めるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの経緯についてもゆっくり話しを聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	状況等を確認し、必要なサービスにつなげるようにしている他の事業所へ紹介も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お互いが協働しながら和やかな生活ができるよう、場面作りや声掛けをしており、少しずつ出来ている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の暮らしの出来事や、気付きの情報共有に努め、本人を支える姿勢でいる事を伝えるようにしており、少しずつ築けている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行きつけの美容院に行かれる方もある。親戚、元近所の方の面会は歓迎している	入居前に出来る限り情報収集を行っている。希望があれば、行きつけの美容院など行っている。ホームが出向く事により、地域住民の皆様が気に掛けてくれるようになった。個別対応について家族と十分協議を行い、以前との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	お茶や食事の時間をスタッフも共に少しでも会話を多くするようしたり、役割・活動等を通して利用者同士の関係がスムーズに行くように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	継続的な関わりを必要とするケースが今は無い		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努め言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている	意向を把握したり、個々の生活歴や入居後の生活を把握するなか、個別対応のサービスを提供している。介護記録にも発言内容を取り入れ、役割や楽しみごとを見つけ出し、利用者に寄り添い、役割を持って頂くことに心掛けた支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人自身の語りや家族の訪問時など、少しずつ把握に努めており、少しずつ情報がとれている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	できること、わかることに注目し、その人の全体の把握に努めるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居者によっては家族との話し合いが十分に出来ていないケースがある。本人の認知のレベルによっては本人の思いが反映しきれないケースもあると思われる</p>	<p>カンファレンスの実施や半年に1回モニタリングを実施している。面会時に家族の意向や希望を把握したり、モニタリングの時期に、家族へ文書を送り、家族の意向や生活面の意向に関し、希望を把握するよう努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別ファイルを用意して、日々の暮らしの様子や本人の言葉・エピソード等を記録する様にしている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>家族の通院介助が困難な場合、近隣の往診して下さる病院を紹介している。突発時・急変時の受診に置いては、状況に応じて対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員と意見交換する機会を設けている</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、要望、状況に応じて対応している</p>	<p>利用者及び家族が希望するかかりつけ医による受診を行っている。受診に際しては職員が同行したり、必要に応じて往診するなど、適切な医療が受けられるよう全面的に支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ホームの看護師と常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化に伴い事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている	入居時には「重度化した場合における対応に関する指針」に準じ、ホームとして最大限可能な支援を家族と十分に話し合いを持ち、医療機関との連携を行い、職員全員がその対応方針を共有し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、電話の手順を解りやすいように書いている勉強会などを通して把握している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアル作成し、避難訓練を行っている	防災マニュアルを整備している。消防署の協力を得て、防災訓練を実施している。又、運営推進会議を通じて、民生委員との関わりを密に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	記録には利用者の名前を書かないようにし、他の家族や外来者に対して、スタッフが本人のプライバシーに関する話を話さないようにしている	個々の状況を把握し、出来るところはお手伝いをお願いしている。記録は、利用者の名前を書かないようにし、個人情報やプライバシーが保てるようにも、配慮している。利用者一人ひとりの人権・権利を意識しながら、個々に合った支援及び声掛けにも、十分気をつけた対応をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食事のメニュー（どんな野菜を食べたいか）など一緒に決める買い物に行き食べたいおやつを選んでもらう		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	この人と一緒に決めてその時間はその人のペースを大切にしているまた体調にも配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	行きつけ店がある場合は、そこへ行く様に努めている。家族から要望があれば早めに行く様に心掛けている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューを一緒に決めたり、片付けを出来る人にはしてもらい、職員と一緒に食事をし、会話を楽しむ	毎月1回の体重測定を実施し、栄養摂取量に見合った食事の提供をしている。毎日買い物に行き、食材を調達し、1日30品目を目標に食材及びメニューを利用者と一緒に考えている。利用者にも個々の能力に応じて、配膳や片付けをして頂き、職員も同じ時間に同じ食事を食べるよう努力されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事状況を記録しスタッフが情報を共有するようにしている1日30品目になるよう工夫している毎食コップ2杯以上は飲んでもらう様にしている</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>一人一人の口腔状態に応じた歯磨きの手伝いを行っている</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>自分でトイレに行けない人は，時間を決め誘導、介助している</p>	<p>個々の排泄パターンを把握、極力トイレ誘導し、声掛けや見守りを行っている。なるべく薬に頼らない工夫として、食材を1日30品目を目標に食して頂き、適時水分摂取に心掛け便秘予防に努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>適度な運動や水分に気を付けている便通時、分かりやすい様、記録には赤で書き、出ていない時は水分をしっかり摂ってもらう</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>毎日、日中に入ってもらっているが、本人が入りたくなければ翌日に回す様、本人の意志を尊重している</p>	<p>個々の状態や体調に合わせた入浴支援をしている。入浴拒否があれば、順番を変更したり、対応職員の声掛けを工夫したり、やむを得ず入浴されない場合は、次の曜日に入浴して頂くなど、柔軟な対応をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	いつでも自室へ行けるようにして いるので、休憩したい時に行か れているリビングの畳でも横にな る事が出来る		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	個別に毎食後の薬を分け、手渡 してきちんと飲んだか確認して いる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	買い物、散歩、水やり、食事の 支度等、その人の力を生かした 役割、楽しみになるように支援 している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援している。	買い物、散歩と戸外に出掛け たり、花の水やり、シーツ干し など手伝ってもらっている	本人の意思を尊重したり、時 候やその日の気分や体調に配 慮し、外出支援を実施してい る。買い物や散歩と外に出掛 けたり、花の水やり、シーツ 干しなど、個々の能力に応じ てして作業をして頂いてい る。外出を通じて、地域の皆 様との交流が図れるよう機 会づくりに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	自己管理が難しい面や、利用 者同士のトラブルを避けるた めにも持っていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	生活している様子など、毎月書面にて家族に報告している		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング前の庭には季節の野菜を植え、成長を楽しんでいる。また畳スペースでは足を伸ばしてくつろげる様にしている	利用者が作成した作品を取り入れ、季節に合わせた飾り付けをしている。ホーム内も適度な採光が入り、職員も穏やかな対応を心掛け、一人ひとりが心休まり安心して生活されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳に座りTVを見るスペースや、ベンチ、ソファを置いて仲のいい利用者同士で寛げるスペースを作っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の好みや馴染みの物などを部屋に持ち込んでもらい、居心地の良い生活空間作りに努めている	以前使用していた馴染みのある物品などが持ち込まれている。本人や家族と相談しながら、居心地良く生活できるよう環境調整に努めている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状況に合わせて手摺りや家具の配置等工夫をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ミーティングで笑顔という言葉を出し、日々の中で笑顔をどれだけ引き出せるか声をかける様になっている	法人理念を念頭に置き、各ユニット共に理念の実現に向けて取り組んでいる。ケアの方針「話し合うようにします。」「一緒に行くようにします。」に基づき、チーム一丸となり、利用者支援に心掛けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	民生委員の方から、地域行事の情報を貰い参加していきたい	ホームが出向く事により、民生委員の方から情報を頂き、地元の祭りを観覧したり、子ども達からも関心をもつようになり、自然な付き合いが出来るようになった。運営推進会議を通じ情報交換を行うなか、社会の構成員として人と人との関わりをもつよう努力されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	キャラバンメイトとしてサポーター養成に協力している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域へ出掛けて行くための地域情報を、得るようにしている	2ヶ月に1回開催している。ホーム現状を報告するなか、建設的な意見交換が行われている。参加者との随時連携を行い、その中で地域情報やアドバイスを頂き、利用者の支援及び運営に繋げている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市の窓口へ行き、気になる事は相談するようにしている	運営推進会議に市の福祉保健課の方が参加されている。担当者とは、随時連絡や直接出向くなどを行い、協力関係を築くように取組み、サービスの質の向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束禁止の研修後、職員間でミーティングを行い、身体拘束を行わないということを職員全員が認識している</p>	<p>日中玄関は開放している。無断外出された方がおられ、それらを教訓に1階玄関に、チャイムを設置し確認している。常に職員は、身体拘束をしないケアを意識し、環境や利用者支援について疑問に思う時は、話し合いを持つようになっている。その人らしく生活して頂くよう、自然な見守りのケアを心掛けている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修を行ってはいるが十分とはいえない</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>行えていない</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>時間を取ってはいないに説明し、重度化や看取りの対応についても説明している</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>言葉として発せられる意見は採り上げているが、運営に反映するには至っていない</p>	<p>毎月請求時には、ホームでの生活状況を報告している。家族訪問時や状態変化があればその都度連絡し、生の声を聴くよう努力されている。運営推進会議に家族代表者に参加して頂き、それらの意見などを運営に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	要望や意見を聞くよう声掛けはしているが、不満や苦情は言い難い部分も多いと思われるので、把握しきれていない可能性もある	申し送りや連絡ノートの活用、必要に応じてミニミーティングの回数を増やし、管理者は、意見を聞く機会を設けている。会議以外での職員とのコミュニケーションを大切にしたり、人事考課制度を導入し、意見を聞く機会を設けている。職員全員がチームアプローチのもと、利用者支援に心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	フルタイム常勤職員の完全正社員化や、キャリアパスの導入等、行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新入社員に関しては計画を立て行っている他のスタッフに関しては個人の力量、状況に応じて行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修では同業者と交流する機会を持っているが、地域の同業者とは出来ていない		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用について相談があったときは、必ず本人に会って、心身の状態や本人に向き合い、本人に受け入れられるような関係作りに努めるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの経緯についてもゆっくり話しを聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	状況等を確認し、必要なサービスにつなげるようにしている他の事業所へ紹介も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お互いが協働しながら和やかな生活ができるよう、場面作りや声掛けをしており、少しずつ出来ている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の暮らしの出来事や、気付きの情報共有に努め、本人を支える姿勢でいる事を伝えるようにしており、少しずつ築けている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行きつけの美容院に行かれる方もある。親戚、元近所の方の面会は歓迎している	入居前に出来る限り情報収集を行っている。希望があれば、行きつけの美容院など行っている。ホームが出向く事により、地域住民の皆様が気に掛けてくれるようになった。個別対応について家族と十分協議を行い、以前との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	お茶や食事の時間をスタッフも共に少しでも会話を多くするようしたり、役割・活動等を通して利用者同士の関係がスムーズに行くように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	継続的な関わりを必要とするケースが今は無い		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努め言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている	意向を把握したり、個々の生活歴や入居後の生活を把握するなか、個別対応のサービスを提供している。介護記録にも発言内容を取り入れ、役割や楽しみごとを見つけ出し、利用者に寄り添い、役割を持って頂くことに心掛けた支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人自身の語りや家族の訪問時など、少しずつ把握に努めており、少しずつ情報がとれている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	できること、わかることに注目し、その人の全体の把握に努めるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居者によっては家族との話し合いが十分に出来ていないケースがある。本人の認知のレベルによっては本人の思いが反映しきれないケースもあると思われる。</p>	<p>カンファレンスの実施や半年に1回モニタリングを実施している。面会時に家族の意向や希望を把握したり、モニタリングの時期に、家族へ文章を送付し、家族の意向や生活の意向の希望を把握するよう努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別ファイルを用意して、日々の暮らしの様子や本人の言葉・エピソード等を記録する様にしている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>家族の通院介助が困難な場合、近隣の往診して下さる病院を紹介している。突発時・急変時の受診に置いては、状況に応じて対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員と意見交換する機会を設けている</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、要望、状況に応じて対応している</p>	<p>利用者及び家族の意向のかかりつけ医を決定している。かかりつけ医の受診に職員が同行したり、必要に応じて往診するなど、適切な医療が受けられるよう全面的に支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ホームの看護師と常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化に伴い事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている	入居時には「重度化した場合における対応に関する指針」に準じ、ホームとして最大限可能な支援を家族と十分に話し合いをもち、医療機関との連携を行い、職員全員その対応方針を共有し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時には事故報告書を書いて、再発防止に繋げている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難誘導の訓練を行った。避難誘導のマニュアルがある	防災マニュアルを整備している。消防署の協力を得て、防災訓練を実施している。又、運営推進会議を通じて、民生委員との関わりを密に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	幼児語や命令口調などの言動は慎むよう、連絡ノートを通じて職員全員に伝達をしている	個々の状況を把握し、出来るところはお手伝いをお願いしている。記録は、利用者の名前を書かないようにし、個人情報やプライバシーが保てるように、各職員が配慮して利用者一人ひとりの人権・権利を意識しながら、個々に合った支援及び声掛けには十分気をつけた対応をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何を食べたいのか、スーパーでの買い物では、好きなおやつなどを選んで頂いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるようにしている。自由にリビングや廊下を往来されている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	近くに行きつけの理美容院があり、職員と一緒にしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	なじみの食器を利用している。入居者に合わせて食べやすいように工夫をしている。入居者と一緒に職員が準備・食事・片付けをしている	毎月1回の体重測定を実施し、栄養摂取量に見合った食事の提供をしている。毎日買い物へ行き、食材を調達し1日30品目を目標に食材及びメニューを利用者と一緒を考えている。利用者も個々の能力に応じて、配膳や片付けをして頂き、職員も同じ時間に同じ食事を食べるよう努力されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	1日30品目を目安に、栄養や献立の工夫をし、身体機能に合わせて調理している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	朝夕食後、歯磨きや義歯の手入れを行っているまた、口腔内に異常があり歯科医の指示のある方には、一日3回、介助にて歯磨きを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンに応じて声掛けしている紙パンツを使用されている方へも声掛けし、トイレ誘導している	個々の排泄パターンを把握、極力トイレ誘導し、声掛けや見守りを行っている。なるべく薬に頼らない工夫として、食材を1日30品目を目標に食して頂き、適時水分摂取に心掛け便秘予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	野菜を15品目を目安に摂取して頂き、水分摂取は1日1000cc以上を飲んで、薬に頼らないで排便できるように心掛けている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	毎日が隔日おきに午前中か午後に入浴して頂いている	個々の状態や体調に合わせた入浴支援をしている。入浴拒否があれば、順番を変更したり、対応職員の声掛けを工夫したり、やむを得ず入浴されない場合は、次の曜日に入浴して頂くなど柔軟な対応の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	ひとりひとりのリズムを大切に し、日中の生活をメリハリのある 生活にし、夜間安眠出来るよう にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	説明書はカルテにファイルしてあ る。誤薬しないように3度の確 認と確薬を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	出来ることはして頂いている。 洗濯物干し、洗濯物たたみ、買 い物、散歩、花の水やりなど 将棋やちぎり絵など行ってい る		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。	買い物、散歩と戸外に出掛け たり、花の水やり、シーツ干し など手伝ってもらっている	本人の意思を尊重したり、時 候やその日の気分や体調に配 慮し外出支援を実施している。 買い物や散歩と外に出掛け たり、花の水やり、シーツ干 しなど個々の能力に応じてし て頂いている。外出を通じて、 地域の皆様との交流が図れる よう機会づくりに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	自己管理が難しい面や、利用 者同士のトラブルを避けるた めにも持っていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族からの電話に対しては、取り次いで会話をしている		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングには観葉植物を置き、壁には絵画や昭和の懐かしい調度品を書いたタペストリーなどを飾って、家庭的な雰囲気を有している	利用者が作成した作品を取り入れ、季節に合わせた飾り付けをしている。ホーム内も適度な採光が入り、職員も穏やかな対応を心掛け、一人ひとりが心休まり安心して生活されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはゆったりと座れるソファがあり、テレビを見たり利用者同士が会話できるよう配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には今まで使い慣れた生活用品が持ち込まれており、すぐに自分の居室だと解るようにしてある	以前使用していた馴染みのある物品などを持ち込まれている。本人や家族と相談しながら居心地良く生活できるよう環境調整に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	時計やカレンダーを目につく所に置いて、1日の生活の中で時を認識していただいている廊下には手すりがあり、見守りで移動できるようにしてある		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームたんぽぽ

作成日 平成 23年 3月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	スタッフの認識が十分でないところがある	死に向かうプロセスがわかりスタッフの意識統一ができる	「死」についての認識、医療的知識・能力の勉強会を開く	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。